



社団法人日本観光協会
JAPAN TOURISM ASSOCIATION

NEWS RELEASE

平成 22 年 9 月 21 日
社団法人 日本観光協会

〒104-0033 東京都中央区新川 1-6-1 アステール茅場町 4 階

本件担当 事業推進グループ 国内振興チーム

担当：島倉・王

TEL：03-6222-2534 FAX：03-6222-2539

第 12 回「花の観光地づくり大賞」が決まりました！

社団法人日本観光協会（会長：西田厚聰）は、平成 22 年度第 12 回「花の観光地づくり大賞」の受賞団体を、下記のとおり選定いたしました。

各受賞団体には、追って、賞状並びにプランターをお贈りすることとしております。

記

【大賞】（最も優れた実績と将来計画を有するところ） 2 団体

恵庭市（北海道）

豊根村（愛知県北設楽郡）

【フラワーツーリズム賞】（旅行商品化に顕著な実績のある、また可能性の高いところ） 3 団体

三島市（静岡県）

下関市（山口県）

社団法人唐津観光協会（佐賀県唐津市）

【奨励賞】（観光客との交流、美しい景観や賑わいの創出などに顕著な実績と将来計画を有するところ） 4 団体

流山市（千葉県）

木の館豊寿庵株式会社（三重県伊賀市）

桜華園管理組合（兵庫県神崎郡神河町）

中山大藤まつり実行委員会（福岡県柳川市）

【努力賞】（今後、より一層心ある花の観光地づくりの発展が大いに期待されること） 4 団体

南部町ぼたんまつり実行委員会（青森県三戸郡南部町）

能登町（石川県鳳珠郡）

井手町桜まつり実行委員会（京都府綴喜郡井手町）

いかるが・花と浪漫回廊（奈良県生駒郡斑鳩町）

※各賞受賞団体は北から順に記載

添付資料

（別添 1） 「花の観光地づくり大賞」概要

（別添 2） 大賞受賞団体概要

（別添 3） フラワーツーリズム賞受賞団体概要

「花の観光地づくり大賞」概要

【概要】

観光地づくりを実践する上で、花の果たす役割は極めて大きく、各地で工夫をこらした花の観光地づくりが進められています。

「花の観光地づくり大賞」は、花の名所や花の景観を整備する花の観光地づくり事業を推進するため、地域の観光振興に寄与している団体等を全国から公募し、大賞、フラワーツーリズム賞をはじめとする賞を選定するもので、今年で12回目を数えます。

第1回から第11回までに、大賞33団体、フラワーツーリズム賞22団体、奨励賞・努力賞など151団体の計206団体を表彰しています。

受賞団体には、財団法人日本宝くじ協会の協力を得て、優れたデザインのプランターを贈呈し、さらなる花の観光地づくりの発展を支援しています。

【選考委員会】

委員長	西田 厚聰	(社団法人日本観光協会会長)
委員長代理	毛塚 宏	(財団法人運輸政策研究機構運輸政策研究所招聘研究員)
委員	溝畑 宏	(観光庁長官)
委員	須磨佳津江	(キャスター・ジャーナリスト)
委員	佐々木 隆	(株式会社ジェイティービー取締役会長)
委員	吉田 正嗣	(社団法人日本観光協会理事長)

【審査・選考のポイント】

花の観光地づくりの実績及びその将来計画について、独創性、地域定着性、継続性、発展性、景観性の5つの視点から総合的に審査を行っています。

【第12回の応募団体数】

16団体 (参考：第11回は12団体)

大賞受賞団体概要

恵庭市（北海道）



昭和 36 年に地元の有志によって設立された「花いっぱい文化協会」がきっかけとなって住民主導による取り組みが始まり、現在では、街の大通りや商店街、個人の庭にいたるまで花が飾られ、花と緑の美しいまちを創り上げている。特に、ニュージーランドのクライストチャーチでのガーデンコンテストをお手本にした「ガーデニングコンテスト」は住民自らの企画・運営で行っている。一方、地域住民からの要望で市に「花と緑の課」（現在は花と

緑・観光課）が設置されるほか、オープンガーデンの魅力が楽しめる「恵の野花マップ」を住民が主体で作成して無料配布するなど、市民、生産者、専門家、行政が一体となった花のまちづくりに取り組んでいる。

評価のポイント：古くから市民による花のまちづくりへの気運が高く、特にオープンガーデンへの取り組みは、まち全体の美化意識向上にも繋がっているほか、花の生産地・消費地としての新たなモデルとして様々な効果を生み出している点が評価された。

豊根村（愛知県北設楽郡）



県下最高峰の茶臼山は、ピーク時は年間 48 万人の観光客が訪れていたが、避暑とスキーを除くと、春・秋は閑散となり観光客も減少したことから、春に新しい魅力を創り出すため、茶臼山に芝桜の植栽に取り組み、団塊の世代・高齢者をターゲットにした展開を始めた。開花 1 年目の平成 20 年には入込客は 5 万 4 千人、翌 21 年には 15 万 7 千人、そして 22 年には 30 万人と年々増加している。日本一高い芝桜の花畑をリフトに座ったまま見ることができるといふ点と、南アルプス

と新緑の山並みが一望できるロケーションが特色である。開花時期には「芝桜まつり」を開催し、物産品販売や村内にある食事処や民宿で昼食を提供する美味めぐりを行っているほか、日帰りバスツアーの旅行商品にも組み込まれているなど、芝桜が起爆剤となって地域の活性化に繋がっている。

評価のポイント：大規模な芝桜栽培に取り組んだ結果、芝桜と景観の組み合わせが、多くの観光客の感動を呼び、来訪者の伸び率が著しいこと、スキー場の閑散期活用や周辺地域の活性化にも大きく寄与している点が評価された。

フラワーツーリズム賞受賞団体概要

三島市（静岡県）



昭和 55 年から市による花壇整備が始まり、同時期には住民による「三島花の会」が設立され、市民主体による花のまちづくりが始まった。一方、富士山の湧水を活かした「湧水・せせらぎの街」としての人気もあり、散策者が増加していることから、回遊性が高まり、まちに賑わいが生まれた。四季折々の花と市内の立ち寄りスポットを紹介する散策マップ「水のほとりの花まっぷ」を作成するほか、JR とタイアップして年 4 回行われる「三島四大ウォーク」や地元ガイドによるツアーが好評を博しているなど、着地型商品のメニューへの組み込みを図っている。

評価のポイント：グランドワークが盛んな地域であり、市民参加型の風土を強く感じる点が評価された。市内の見所に花を加える組み合わせにより、まち全体の魅力アップに大きく寄与している。

下関市（山口県）



2007 年に姉妹都市 35 周年を記念し、トルコのイスタンブール市よりチューリップの球根 6 品種 5 万球が寄贈され、2009 年 4 月「火の山公園トルコチューリップ園」がオープンした。約 200 名の市民ボランティアによりチューリップとビオラ 1 万 5 千株が植栽され、2009 年は 4 万 3 千人の来園者を数え、2010 年で 6 万 8 千人に達した。また、チューリップの終わった夏から秋にかけても来園者が楽しめるよう、コリウス、ダスティーミラーの植え付けなどの模様替えを行ったほか、見頃が同時期である近隣の長門市の「依山しゃくなげ園」（第 11 回花の観光地づくり大賞受賞）をはじめ、下関市・長門市・美祢市の 3 市を結ぶ観光周遊コースを策

定した。

評価のポイント：「火の山公園」の整備がきっかけとなり、いわば観光地再生型へのモデルチェンジに成功した点と、近隣地域との効果的な連携を図った点が評価された。

社団法人唐津観光協会（佐賀県唐津市）



市内相知町の「見帰りの滝」周辺に、地域住民が「滝に彩りを」とアジサイを植え始めことが契機となり、その後、滝までの道路沿いや遊歩道にもアジサイの植栽が広がった。平成元年から毎年開催している「見帰りの滝あじさいまつり」は、滝とアジサイのコントラストが評判を呼び、1 ヶ月の開催期間中には 6 万人の観光客が訪れている。住民、行政、観光協会が一体となり、年間を通してアジサイの栽培・管理に取り組んだ結果、九州各地をはじめとする大型バスツアーの旅行商品にも組み入れられている。

評価のポイント：滝にアジサイを加えることによって新たな魅力を生み出した点と、市内全体への誘客にも多大な影響を与えている点が評価できる。